

News Release



2020年11月10日
中京テレビ放送株式会社

2020年 日本民間放送連盟賞 グランプリ受賞

がらくた ～性虐待、信じてくれますか～



2020年 日本民間放送連盟賞の表彰式が本日举行されました。あわせてグランプリ、準グランプリ作品が発表され、中京テレビ制作「がらくた ～性虐待、信じてくれますか～」がグランプリを受賞しました。

News Release

番組名：がらくた ～性虐待、信じてくれますか～

番組内容：国の調査によると、日本では13人に1人の女性が、性暴力の被害に遭っているといえます。しかし、そのうち警察などに届けて出た人は、2割にも満たないのです。日本では、実際に声を上げられている被害者は、ごく一部のの人に限定されているのかもしれませんが。

小学3年生から20代前半までの、実父からの性暴力被害の記憶に苦しみ続けている、なみさん。

取材が始まったころ、顔は出したくない、と話していた彼女でしたが、後日こんなメッセージが届きました。「モザイクかけちゃうと、被害者Aさんになってしまうんかなあって感じて」。そして取材を受けた理由についてこう語りました。「回復の仕方をテレビで見せられたらいいなって思う。性被害は過去にならない、ずっと泣いている人が1人でも減ればいい」。声を上げられない多くの被害者を代表して、自らの姿を晒す覚悟を私たちは感じました。

その後の取材で私たちは、性暴力被害の苛烈さを、何度も目の当たりにすることになりました。フラッシュバックが起き過呼吸に。抑うつ状態となり、起き上がれない日も。

さらに、過去の記憶を「上書き」する行為も。身に着けていた下着を男性に売ること、自分を必要とされる感覚を得たい。実父に触れられ傷つけられた記憶を性行為で上書きするため、風俗店に勤めたこともありました。いずれも想像し難いものでしたが性暴力被害の記憶に苦しむ彼女にとって、止むに止まれぬ行為だといえます。

彼女の被害からの回復の、鍵となる存在は母親。過去に父親からの被害を訴えたとき、「あなたの勘違いじゃない？」と応えたという母親ですが、それでも信じてもらいたいと考えていました。母親は、性虐待を信じてくれるのか。なみさんは絶縁状態となっていた母親のもとを訪ねます。しかし、母親は否定も肯定もしませんでした。

最後に彼女は問いかけます。「性虐待があったと信じてくれますか?」。その言葉は、性暴力被害者たちから社会への問いかけのようでもありました。

スタッフ：森 葉月（ディレクター/中京テレビ放送）

佐藤彩子（撮影/CTV MID ENJIN）

安川克巳（監修/SLOW MEDIA PROJECT 合同会社）

渡邊祐史（監修/中京テレビ放送）

横尾亮太（プロデューサー/中京テレビ放送）

製作著作：中京テレビ

お問い合わせ先

■中京テレビ放送株式会社 編成局編成部 広報担当